

経験豊富なドクター・トラストの 保健師を導入してみませんか？

保健師ってどんなことをするの？ 保健師を導入するとなにかメリットがあるの？
そんな疑問にお答えします！

保健師の基本業務

訪問例：月2回各2時間 / 計4時間想定

＊ 健診結果の情報整理と集計

情報整理とは？ 異常所見者のピックアップ、職場で多い所見項目の集計、会社で抱える問題の提起や調査など

＊ 衛生委員会への出席（議題の立案や健康情報提供を行います）

＊ 保健指導業務（社員の健康改善・維持・増進のため健康相談を行います）

例：健康診断の結果をもとに「(要)治療」、「(要)経過観察」レベルの人を面談

(要)経過観察とは？ 直ちに受診するほどでは無いですが、データ自体はグレーゾーンです。
ここで、しっかりと保健師から生活習慣の指導を行なう事で悪化を防ぐことができます。

上記以外で 行っている 業務

- ・ 事業所一斉面談（全員面談）
- ・ 育休復帰後面談 / 産休前面談
- ・ 入社3ヶ月後面談
- ・ 過重労働面談者のスクリーニング
- ・ 産業医の選任義務のない事業場（従業員が50名未満）への訪問・面談
- ・ メンタル相談、健診結果の「経過観察」レベルの人、「要再検査」レベルの人で産業医面談が間に合わない人との面談。
- ・ 月1回の産業医訪問では次の面談までに1ヶ月期間があいてしまうため、保健師が面談→結果を産業医と共有をしてフォローする など

どんな人の面談??

メンタル不調者、健診の結果が優れない方、上司等が気になる社員 など

保健師導入のメリット

メリット1

産業医との役割分担、 業務の充実

産業医だけでは時間的に行うことができない業務を、保健師が連携・分担することで、業務の充実と高い効果が期待できます。

メリット2

保健師ならではの視点と 親しみやすさ

産業医（医師）とは違った視点で、社員の方への保健指導ができ、産業医との面談よりも気楽に面談を受けることができます。

企業様の声

各企業の担当者さん・社員さんの反応

産業医との業務分担

- ・今まで産業医が検診結果の判定業務を行っていたが、保健師が行うことで面談や相談する時間が増えた。
- ・面談者数が大幅に増えたが、産業医は休職・復職面談などに集中できるようになった。

保健師の専門性

- ・保健師は就業判定をしないため、気軽に相談ができ、職場が抱える問題や不満などを拾ってくれる。
- ・個人の病気だけでなく定期的に健康・衛生管理・労基などの情報や資料をくれるので助かっている。

訪問開始時と現在の状況の変化

産業医との業務分担

- ・産業医の選任義務のない事業場（従業員が50名未満）ですが、専門家の意見は参考になり、とても重宝している。
- ・産業医の先生より訪問頻度が多く、リピートしての相談がしやすくなった。

保健師の専門性

- ・社員とも顔なじみになり、ちょっとしたことで相談に行くようになった。
（例：ダイエットの経過報告や、家族の相談等）
- ・人事として衛生管理の仕事がとても楽になった。

訪問を通して感じること

産業医との業務分担

- ・産業医面談は優先度が高いメンタル相談や要治療レベルの人に限られてしまうことが多く、潜在層を拾い上げるのは時間的に難しいので助かっている。
- ・保健師は訪問時間も長いので、色々なケースの面談を実施することができ、「予防」という点で特に意味がある。

保健師の専門性

- ・産業医と保健師は役割が違うのでセットで訪問をして頂くと抜群の安定感がある。
- ・定期的に保健指導を受けることで、自然と健康への意識が高くなっているのを感じる。
- ・食事、運動などについて具体的なアドバイスをもらえるので、とてもためになる。

企業の意識の変化

産業医との業務分担

安全衛生委員会の場で意見を求めると、保健師ならではの意見を頂け、参考になる。また、風疹や鳥インフルエンザなど、社としての対応を決める際も、メールなどで資料や意見を求めることができ、とても心強い。

保健師の専門性

- ・過重労働やメンタルは面談者との相性が大きく影響することがあり、保健師を導入した結果、相談しやすい方を選択することができ、特にメンタル相談では効果が大きいと感じました。
- ・社員の不満の声が聞けるようになった。